曲亭馬琴著

傾城水滸傳第八編

歌川國安画

下帙卷之上

へ13
3087
23

へ13 特
3087
23

傾城水滸傳第八編序

毎編八号合本上下二帙各二冊
江門仙鶴堂鶴屋喜右衛門刊行

ある人予が尚とあり て曰嘗疑ふ水滸傳の作者宋江をして忠義の良民とし既に梁山泊に一百八人の豪傑を聚合して勢ひを得るに及て天に替て道を行ふの言あり然るに宋江が江州に流されし時潯陽江なる酒樓に登りて獨酌に酔興のあまり壁に題せし反詩の旨趣その身の才の黄巣に勝るを誇るに在り是顯然たる逆賊なるにあらず非如黄文炳が讒言なりとも世に借るべき罪戾なるべし然るに異日梁山泊なる賊兵十萬を率ひて宋に叛くまで悪意なく帰順の望終始変せず遂に方臘を討つに及て功ありて賞を得ざりしを些も怨る気色なく宋の忠臣たり事に臨み身を捨て二心なるに似たり高評あんぬべしと予答て曰子は只水滸の皮肉を見て骨髓を知らざるのみ宋史に載る宋江は逆賊なり降りてのち宋江に代て八編

傳を作りしの這賊の字を反覆して宋江をして忠義に反らして彼稗史なる宋江は初め循吏中の反賊後に至て忠臣たり反詩の趣向は天罡地煞の悪星出世の応験なり則宋江が真面目総て奸邪の條なり かくて石碣天降りて再び妖魔を鎮めしより獨宋江のみ凡一百零八賊皆是忠義の良士とあるはかえって勸懲正しくして善悪無差別の趣向ヨリ魔出現の間なり最後の宋江最後の百七人と同じかるを浮屠家の所云即心即佛反覆せば非心非佛成佛は易し無成佛は最得かたしとは由て観るべし水滸の忠義は虚名なり妖星も亦化して北斗となる金聖歎尚暁らで評言を費しまどる傾城水滸は下流を汲て濁を受ぬ始より勸懲を正くせしも有官の惑ひなるかも

文政十二年己丑春正月吉日新版　曲亭馬琴識

女韋駄天
夏女
駿馬乃尾の掛子のく
千里ゆくこゝ孫よおまち
さへを附ゼド
大虫凡枸橘

都鳥
琴樋
獨木船横鯛

和文字植梨
傭鉞妙技糸
聖手刀鐫妙
這三婦人自第九編而出

東鮒乃えみぢの花
春霞龍間
夕虹日熊

天地金末廣
弐分金河堀

颱風力壽
零丁鳥下貝

粉

書物錦繪暦問屋仙崔堂鶴屋喜右衛門版

傾城水滸傳 初編五編迄先達て賣出し 柳亭馬琴作
六編七編編ま新作賣出し 歌川國安画

繪本漢楚軍談 初編五編迄 通俗漢楚軍談を和文に作り 柳亭馬琴作
共二十冊出來 [illegible]

當世侠者水滸傳 歌川國貞画
嵐璃寛の立者武を豪傑水滸伝になぞらへて画本なり

稗史水滸傳 初編六編迄 山東京山譯
共二十二冊賣出し 歌川國芳画

水滸傳豪傑雙六 歌川國芳画
奉書二枚つぎ彩色すべし 画面に沿ふく長形なり

水滸傳劇場雛形 初編 鶴屋南北作
四冊 歌川國貞画

忠臣水滸傳 山東京傳作 繪入讀本十冊
忠臣義士の義士伝豪傑水滸伝なぞらへ玉梓おもしろき名文乃絵本なり